

愛の中に産まれる

名古屋市立はとり中学校2年 樋口 暖心

私の両親は、私のことをとても愛している。私の写真をスマホの待ち受け画面に設定するのは当たり前だし、毎晩、寝る前には「ハグをさせて」と迫ってくる。私も、もう十三歳になったので、さすがに恥ずかしい気持ちがあり、小学生の頃のように全身で愛情を返すことに二の足を踏むと、二人は少ししょんぼりしてしまう。

父と母は結婚当初、医師から「子どもを授かりづらい」と言われていた。そう言われた時はショックだったようだが、絶対に子どもが欲しかった二人は、迷わずに不妊治療を決め、治療と努力の結果、私が産まれた。妊娠できるならと、一風変わったご神体が祀られた、子宝成就で有名な神社にお参りに行ったと話を聞いたが、やはり医師の診察、診断、指導のもと行われた治療のおかげで授かることができたと言っている。無事に産まれた私を、腕に抱けた瞬間はそれまでの苦労を忘れてしまうほどに嬉しかったと、二人は今でも涙ぐんで話す。

不妊治療の大変さは治療だけではなく、治療に掛かるお金も相当なものだと、以前にテレビで観たことがある。総額で数十万から数百万も掛かる場合があると言っていて、まさに目玉が飛び出るくらい驚きの声を上げたのを覚えている。しかし、その状況に変化があったようだ。二〇二二年四月から、不妊治療が保険の適用対象になったのだ。前述の通り治療には、かなりの金額が必要だった為、子どもが欲しくても諦めないといけなかった人も沢山いたと思う。だけど、これからは窓口での支払いが原則三割負担で済むのだ。これにより経済的理由から治療に踏み切れなかった人達も、前向きに考えることができる。

医療費と言えば、海外では高額になることが珍しくないが、日本では高い水準の医療が保険適用で受けられている。さらには、私が病院に掛かった際にはお金を支払っていない。「子ども医療費助成制度」という制度により私の住む名古屋市では十八歳に到達した年度末まで医療費が無料なのだ。これらの制度は全て、私達が払っている税金によって成り立っている。私はまだ自らの力でお金を稼いでいないので、直接的に納税はしていないけれど、お小遣いで本を買えば消費税を払う。これも納税だ。正直に言うと、今までは「消費税の分だけ安くなっていたら嬉しいけどなあ」と少し邪魔臭く思っていたが、病気や怪我で大変な時に、社会保障制度の恩恵を受けていると考えたと、未来の自分に安心をプレゼントしているような気になれる。

父と母も、不妊治療の保険適用化をとても喜んでいる。妊娠、出産を望む夫婦にとって、金銭的支援は、心の支えでもあると知っているからだ。私はこのニュースを通して、日本の社会保障制度に誇りを持つようになった。それは同時に、父と母の子どもに産まれた喜びでもある。私も二人のことを愛している。